利用を推進する。「核」 り、戦後は原子力の平和 象徴するかのような人生 とともに過ぎた半世紀を 原爆の炎の中を生き残

はきちんと使っていけ れまで第三次原爆戦争な 試されているのかもしれ 及第かどうか。まだ神に たとは思わないが、さて るのか。これまで落第し である原子力を私たち くのか、極限の科学技術 でも本当にこのまま続 に生きてこられた。 ●原子力●「人類はこ 間と財界に抗議に行った

利用を推進する日本原子 学雑誌記者を経て、平和 力産業会議(原産)に、 で理論物理を学んだ。科 。故湯川秀樹博士の下 旧制広島高から京都大 ため、外で文句を言うば 故隠しなどで、市民が原 逆に説得された」 かりでなく中に入れ』と りしたもんです。すると 『間違いない開発をする 相次ぐ原子力施設の事

きちんと学ぼうと研究者 もうけ主義で核に手を出 らと勉強会をつくった。 代、平和利用の可能性を すのはけしからんと、仲 ●平和利用●一記者時 ってきた。だからこそ、 利用の拒否」との国民合 厳しい目を注ぐ。「軍事 橋渡し役として、身内に 産業界や科学界と国民の 懐疑的なものへ変わ

に入った。

意を口先だけに終わらせ んと勉強しなければとい かもしました。今では、 問題は政治に任せろ』と である。 核兵器禁止についてちゃ の声もあり、内輪でけん ●核兵器●「『軍事の

に戻った。爆心地から 年寝込んだ。そんな重苦 し、生き残った自分も半 ・一きの幟町。両親と兄 親が心配で京都から実家 夫婦、めいの五人を亡く はつい最近。話すたびに、 跡的な生還劇がつきまと 五年」と宣告される病気 り、医者から一時一あと で兵庫県西宮市にいた 阪神大震災の数時間前ま 目じりをぬらす。最近は、 になったが完治した。奇 原爆投下の三日前、両 い回顧を語り始めたの

もっと悩めと生かされて ない。それを軍事に使う 解決策を探るしかない。 しても、結局はだれもが 生きる意味に悩みながら でも、今の事故隠しに見 られているように思う。 った。僕の体に植えつけ 生やさしいものではなか 情景は、地獄なんていう プルトニウムが悪魔じゃ えるたびにつらい。悩む。 なぜ生き延びたのか、考 人間が悪魔なんだ。僕も、 れるモラルハザードに ・モラル・「あの日の

問題続きの開発体制 日本原子力産業会議副会長 視線

もりかずひさ

まいと、原産も自ら二十 う意識が、原子力関係者 に核軍縮を考える特別委 加えた国民会議的な組織 年ほど前、批判的な人もにも定着したように思 に衣替え。その後も内部 をテーマに原産年次大会 に古里広島で核兵器廃絶 員会を設けたり、四年前 間でできることはきちん PT)の無期限延長論議 とやっていきたい」 針に反対したんです。民 の時も、原産は政府の方 う。 核拡散防止条約(N いるんでしょう

東京TALK 東京TALK 東京TALK

九五六年の創立ととも子力開発に向ける視線

を開いたりした仕掛け